

ほなみ通信

第94号

2021年12月9日

社会福祉法人

坂井輪会

発行元 〒950-2035 新潟県新潟市西区新通4734 TEL 025-269-1600 FAX 025-269-1571

祝 敬老の日



道場山穂波の里では、食事会と入居者の皆様へメッセージカードを作成しお渡しました。食事会ではお重でお出しし「わー！豪華だね！」と驚きながら喜んでおられ、楽しい雰囲気の中で召し上がってきました。安部様は娘様より差し入れのノンアルコールビールを飲まれ、とても喜ばれていました。



特養 道場山穂波の里

特養 穂波の里

期間限定の 面会再開

施設内では新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、特養に入居されている方へのご面会を基本的には中止とさせていただいていました。が、10月上旬より新潟市や全国での感染者数の減少があり、限定的ではありますが面会を再開しました。

期間は、10月11日～10月28日。県内在住の方でワクチン2回接種から2週間以上経過している方、県外への外出や県外の方との接触のない方、1回2名までで10分程度、とさせていただきました。多い日には5名の入居者の方への面会があり、期間中に何度も面会の予定が入る方もいらっしゃいました。マスク、フェイスガードをつけての面会ではありましたが、記念に皆さんで写真を撮ったり、好物をお土産に持参される方がいらっしゃったりと、久しぶりの再会を楽しんで下さったようです。

期間は、10月11日～10月28日。

新任あいさつ①



社会福祉法人坂井輪会
理事長 細貝 昌明

令和3年の1月に上杉あさ子前理事長の後任として、当法人の理事長に就任いたしました細貝と申します。今年で穂波の里を開設して27年を迎えます。この四半世紀、安心して住み続けられる福祉のまちづくり、人権尊重の援助を運営理念に掲げ高齢者介護に邁進してきました。

当初10年間は、特養運営で高齢者援助のノウハウと経験を積みながら在宅高齢者支援のための在宅3事業（ショート、ヘルパー、デイ）をはじめ居宅介護支援事業所や配食事業を展開、支援事業所や配食事業を展開、平成13年に新規事業としてケアハウスやグループホームの建設を行いました。次の10年は地域の拠点づくりとして在宅高齢者の居場所として地域のお茶の間「たんぽぽ広場」を開設、地域包括支援センター坂井輪も新潟市より受託しました。平成23年には地域密着型特養や認知症デイとしての道場山穂波の里を開設しました。

新潟西警察署生活安全課
(025) 260-0110

▼お問い合わせ先
新潟西警察署生活安全課

○西区民のための「安全安心メール」配信開始
新潟西警察署と新潟市西地区防犯組合連合会は、新潟市西区及びその周辺で帰宅困難になつてゐる可能性のある認知症高齢者等の早期発見をするために、西区民の皆様へご協力を求める「高齢者等所在不明手配情報」を「安全安心メール」として令和3年4月1日から配信を開始しました。より多くの方から登録していただき早期発見につなげていきたいところですが、まだまだ登録数が少ない状況とお聞きしています。特に外回りの仕事に従事している業種の方々や大学生などの若い世代の方々からも関心をもつていただき、登録へとつながるよう、また認知症サポート養成講座の受講者に対しても登録を呼びかけるなど、包括としても積極的に取り組んでいきたくと考えています。

▼お問い合わせ先
新潟市保健衛生部地域医療推進課 担当 関根

○西区キャラバン・メイト連絡会
『オレンジにし』発足
キヤラバン。
メイトとは、認知症に対する正しい知識と具体的な接し方を地域のみなさんに伝え、認知症サポートを養成する講座の講師役を務める方のことです。その方々の活動をサポートする連絡会が令和3年11月1日に発足しました。流通センター内に事業所をおく(株)マルタケ様が手上げをされ、認知症に優しい地域づくりのために奮闘してくださっています。連絡会が発足したこと、メイト同士横のつながりができ、個人または講座の質の向上にもつながり、地域における認知症の理解や協力を得るために組織的・効果的に取り組めることと期待しています。西区内にある各包括からも運営面での話し合いに参加させていただき、相談窓口として認知症にかかる地域課題などの情報を共有、少しでも良い方向に進められるよう協力していきたいです。



▼お問い合わせ先
事務局(株)マルタケ 担当 渡辺様
(025) 212-0018

（文責 梁取）

地域包括支援センター

地域や在宅にかかわる新たな動き



○西区キャラバン・メイト連絡会
『オレンジにし』発足
キヤラバン。

メイトとは、認知症に対する正しい知識と具体的な接し方を地域のみなさんに伝え、認知症サポートを養成する講座の講師役を務める方のことです。その方々の活動をサポートする連絡会が令和3年11月1日に発足しました。流通センター内に事業所をおく(株)マルタケ様が手上げをされ、認知症に優しい地域づくりのため奮闘してくださっています。連絡会が発足したこと、メイト同士横のつながりができ、個人または講座の質の向上にもつながり、地域における認知症の理解や協力を得るために組織的・効果的に取り組めることと期待しています。西区内にある各包括からも運営面での話し合いに参加させていただき、相談窓口として認知症にかかる地域課題などの情報を共有、少しでも良い方向に進められるよう協力していきたいです。

○在宅医療・救急医療連携
『にいがた救急連携シート』運用
『にいがた救急連携シート』とは、既往歴、持病、服薬状況、緊急時連絡先、かかりつけ医情報のほか、今後の治療や療養に関わる本人の意向を含めた情報シートで、あらかじめ作成しておいてください。アチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセスのことです。実際、「まだ先のことは考えられない」「この先者が変わるかもしれない」などとの声も聞かれ、そう簡単に決められることではありません。また、ご家族の同意が得られない場合もあるかもしれません。だからこそ時間の余裕がある今から関係者で話し合いを重ね、できる限り本人の意思が尊重され、関係者が納得のいく最期となるよう考えてみてはどうでしょうか。介護の現場でも避けては通れない大切な問題です。

○在宅医療・救急医療連携
『にいがた救急連携シート』運用
『にいがた救急連携シート』とは、既往歴、持病、服薬状況、緊急時連絡先、かかりつけ医情報のほか、今後の治療や療養に関わる本人の意向を含めた情報シートで、あらかじめ作成しておいてください。アチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセスのことです。実際、「まだ先のことは考えられない」「この先者が変わるかもしれない」などとの声も聞かれ、そう簡単に決められることではありません。また、ご家族の同意が得られない場合もあるかもしれません。だからこそ時間の余裕がある今から関係者で話し合いを重ね、できる限り本人の意思が尊重され、関係者が納得のいく最期となるよう考えてみてはどうでしょうか。介護の現場でも避けては通れない大切な問題です。

平成18年4月に新潟市地域包括支援センター坂井輪が開設してから、約15年近くが経ちました。この間に高齢者人口の増加や様々なケースの対応が増えておりました。それに伴い、令和3年10月から、より身近な日常生活圏域の2つに分かれることとなり、新たに五十嵐中学校区に新潟市地域包括支援センター五十嵐が新設されました。包括は、専門職である主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師の三職種で構成されておりました。地域の方々に受け入れて頂けるよう努力していきたいと思いました。その経験を活かしつつ、身近な相談窓口として、地域の方々と連携して対応しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

Tel 378-2255



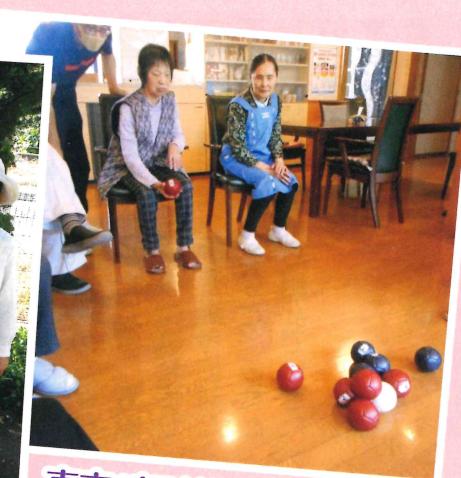
地域包括支援センター
五十嵐 センター長
高澤 真由美



道路沿いから見た外観
入口は左手通路(傾斜あり)を登った裏側になります



入口(正面玄関)はこちらです



東京パラリンピックの競技
ボッチャに挑戦

グループホーム穂波の里 ショートステイ穂波の里

松ぼっくり飾り・月見団子作り

